

平成 25 年度 新学術領域研究（研究領域提案型）審査結果の所見

研究領域名	生命分子システムにおける動的秩序形成と高次機能発現
領域代表者	加藤 晃一（大学共同利用機関法人自然科学研究機構（共通施設）・岡崎統合バイオサイエンスセンター・教授）
研究期間	平成 25 年度～平成 29 年度
科学研究費補助金審査部会における所見	<p>本研究領域は、生命分子システムを構成する多数の素子がダイナミックな集合離散を通じて秩序構造を形成し、それが時間発展して高次機能を発現する仕組みを分子科学の観点から解き明かすことを目指している。生命現象の動的秩序を分子レベルで解明していくことは極めて重要な課題であり、実験から理論に至る広範な研究者が共同して研究することが不可欠である。その目的のため、実力のある実験・理論研究者を交えて「動的秩序系」を探索・創生・展開するといった複数の観点から研究を推進しようとする点は新学術領域としてふさわしい。また、本研究領域は、従来の分子生物学によるアプローチと超分子化学分野の橋渡しを、物理化学に基礎を置いた研究によって融合を図ることで新たな研究領域を開拓するものであり、大きな発展が見込まれる。計画研究のバランスは良く、領域代表者の様々なプロジェクトの運営経験を生かした機能的なマネジメントにより、領域の目的が研究期間内に達成されることを期待する。</p> <p>一方で、領域内における研究目的の意思統一が課題であり、領域全体として、何をどこまで追求するか具体的な目標をさらに明確にする必要があるとの意見があった。また、異分野の若手研究者交流の推進を図ることが望ましい。</p>